

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570102814		
法人名	社会福祉法人 みその		
事業所名	みそのホーム グループホーム		
所在地	秋田市寺内蛭根2丁目6-34		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成31年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で温かい雰囲気の中で過ごして頂き、利用者のストレス軽減やリフレッシュに努めている。今年初めて認知症カフェ(みそのカフェ)を開催する事が出来た。今後継続して開催する事により地域の方々とも連携を深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成12年の開設当初よりカトリック精神に基づく理念「感謝・喜び・安心」のもと、お互いの喜びを大切にしながら支援が実践されている。数年前に新築された建物は、経験をもとに安全を重視しながらも、ゆったりと過ごせるよう工夫され、重介護の方にも対応できるよう配慮されている。看取りに関しても24時間の看護サービスの提供が可能なおかげで、早い段階から取り組まれており、利用者・家族の希望に寄り添った支援がなされている。また、昨年は認知症カフェ「みそのカフェ」を包括支援センターの応援も得て初めて開催し、大きな手ごたえを感じたところであり、今後一層の地域での認知症ケアの拠点としての活躍が期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム入口に掲示し感謝、喜び、安心という理念の下職員が共有して実践している。	端的で覚えやすい理念は、キリスト教の教えに基づき開設時より継承されているものである。職員は常に念頭に置いてケアに当たっており、利用者と日々感謝の思いを分かち合う関係を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園散歩、買物、外食時など地域の方々と関わりがある。 寺内小学校や附属中学校の生徒達とも交流があった	事業所の近くに近隣の方々も利用する公園やスーパーがあり、気候の良い時には散歩や買い物に出かけ交流機会を持っている。また、昨年は町内会に賛助会員として入会し町内の行事に参加したり、校外学習の受け入れを行い、小中学校生との交流もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	見学、申込時など不安、悩み等に答えている。 今年是和洋女子高校の職業体験、日赤看護大学の実習を受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回定期的に開催している。 参加者の方々から意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議では、事業所の活動状況や利用者の動向、ヒヤリハットなどが詳しく報告されている。ホームが市指定の避難場所になっていることなどから、町内会から災害時の事について意見が出たり、初めて開催した認知症カフェについても意見交換がなされ、具体的なサービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの職員の方に運営推進委員会に出席頂き、サービス状況を伝えておりアドバイスを頂いている。みそのカフェにも参加頂いた。	定期的な運営推進会議の開催で、包括支援センター職員と密な連携が取れており、具体的な協力やアドバイスが地域ニーズの把握に繋がり、サービスに生かすことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム玄関はすぐ道路があるため施錠している。一か所のみ。夜間はアルソック警備を設定している。	身体拘束に関する研修を定期的に行い、職員会議の場で状況を把握し、身体拘束に当たる行為がないか確認している。施錠されている玄関は日常的には使われておらず、他に外部と通じる出入口があることから、拘束には当たらないと考えられた。転倒防止のために利用者に圧迫感を抱かれない範囲でセンサーを利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めケアを見直し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加する様心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書、重要事項説明書について十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に参加して頂き、意見を頂戴している。 玄関に意見ノートを用意している。	意見ノートに記載はあまりない。面会時や受診対応で来られた時に意見を聞いたり、運営推進会議で話をしてもらったりしている。家族からの提言で、お互いの話がきちんと伝わるように、物事を伝える際には窓口を一つにして(主任を通して)やり取りをするようにしたなど、サービスに反映させている。利用者からは、日常接する中で聞き取りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを開催しノートに意見を書き入れ職員から意見をもらっている。	カンファレンスノートには利用者に関することや業務に関することに対しての提案が記載され、現状の確認や、職員の意見の聞き取りなどを重ね、状況に即した業務内容になるように見直しがされている。このプロセスを踏み、最近大きく業務の見直しを図ったところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見をもらいグループホーム内の会議や全体会議で反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を行っている。介護労働安定センターの研修も利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡協議会ケアパートナーズに加盟しており、合同作品展に参加している。研修会への参加は今年度あまり出来なかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を入所前は、必ず行き不安、要望を聞き安心してご利用頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や契約時に不安、要望を聞き関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯たたみなど日常生活で行う事を一緒に行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は自由にして頂きゆっくりと談話出来る様家族室を用意している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の公園に散歩へ出掛けている。又ドライブの際、利用者の行きたい所を聞き、馴染みの場所へ行く事もある。	利用者の重度化が進みあまり遠出はできないが、公園やスーパーに出かけた際に地域のなじみの方々と交流している。また受診付き添いはできる限り家族に対応して頂き、家族との関係も途切れないよう意識している。受診帰りに家族と外食したりと喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	移動時、起床時など利用者が声を掛け合う場面がある。活動では一緒に制作したり、行事に参加している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に1回法要ミサに招待している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から意向を聞き介護計画に活かしている。 又普段の生活からご本人の意向をくみ取る。	介護計画の作成の前に家族から意向や希望を聞いている。利用者からは普段の様子から汲み取ったり、夜勤帯などで一対一になった時にゆっくり話をして本当の思いに近づけるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活歴を聞き把握している。 日々のカンファレンスにて意見をまとめる。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のカンファレンスにて情報を共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを行っている。今年度からは担当者を決め、介護計画書作成に反映していきたい。	部屋担当が細かな情報を把握し、カンファレンスで他のスタッフも意見を出し合い、その結果をもって計画作成担当者が介護計画にまとめ上げている。詳細なケア内容について職員間で情報共有され、丁寧にモニタリングされていることが計画書やカンファレンスノートから確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、カンファレンスにて情報を共有している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院受診、近隣医院が往診対応している。	
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、歯科、眼科など利用している。	家族が付き添い、かかりつけ医を受診している。歯科は往診対応が可能であり皮膚科も要請により往診してくれるため助かっている。薬局とも相談できる関係にある。
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や他部署の看護師と連携している。	
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、相談員と連携をとり情報交換している。	
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム開設時より看取りを実践している。昨年もお一人看取っています。	24時間の看護サービスの提供が可能であり、開設当初より看取りを実施し、職員も経験を重ねる中で対応する力をつけている。かかりつけ医との協力体制が取れれば、家族・利用者が望む場合に、これからも取り組んでいきたいと考えている。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、急変時のマニュアルがあり訓練を行っている。	
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防立会い、水害時の避難訓練、夜間想定訓練を行っている。	各避難訓練を行い、消防署からは具体的なアドバイスをもらい、計画に生かしている。訓練時には併設事業所との協力体制も確認している。緊急時には警備会社の対応も得られる。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉遣いは普段から気をつけている。面会時は家族室を使用して頂いている。	長く入居されている方とは、親しさも表しながらぞんざいな言葉使いにならないよう気を付けている。トイレ誘導時なども他の方には気づかれないように声掛けするなど配慮している。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望など会話の中やご家族より情報を得ている。	
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたり、本人の希望を優先してその人らしい生活が出来るよう、支援している。	
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、誕生日の時など化粧をしたり、外出時は好みの洋服を着て頂くようにしている。	
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、食器などに気をつけている。ご本人の嗜好を聞き、メニューに反映している。	日曜日以外は調理済の物を盛り付け配膳する形となっている。利用者の介護度が高くなっていることもあり、できる方は限られているが食器拭きなどを一緒に行っている。日曜日には利用者の希望のメニューを取り入れたり、一緒に買い物に行くなど楽しみが持てるようにしている。
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックして必要量を摂れるよう把握に努めている。	
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日、毎食行っている。入れ歯洗浄も行っている。歯科往診は現在1名いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄間隔、パット類の使用など自立出来るよう支援している。	チェック表の活用により可能な限りトイレで排泄できるよう取り組まれている。職員の気持ちに支えられ、移乗に介助を必要とする方で、夜間はオムツ対応の方も日中はハビリパンツ+パットで排泄支援されている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳とバナナを提供している。口腔体操を毎日行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、一般浴を使用しゆっくりと入浴できるよう支援している。	1日に3人ずつゆっくりと入浴して頂いている。介護度の高い方には複数の職員が対応し、できるだけ一般浴槽が利用できるよう支援している。どうしても一般用が困難な場合には併設事業所の特殊浴槽を利用することもできる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動したりお昼寝をとり、安眠して頂けるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬をファイルしている。お薬手帳の管理をしている方もいる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ、食器拭きなど役割をもっている。制作活動、ドライブなども実施している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気を見ながら、ドライブも実施している。利用者より温泉に行きたいとの希望もあるので計画していきたい。	事業所に車(車いす対応可)があり、気候の良い時や利用者の希望があり状況的に可能な際にはドライブや外出を行っている。何年か前に日帰りで温泉に出かけたこともあり、今度は家族風呂のある所に、泊りがけなども視野に入れて計画していきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は所持されている方はいない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いたさいお礼の電話を本人からして頂いている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るくし季節の花を飾ったりしている。ホールにソファーを設置しゆっくり過ごせるよう工夫している。	共用の場所には職員の心使いで季節の花が飾られたり、皆で制作した作品が飾られている。ホールにはソファーも置かれゆっくり過ごせる工夫がなされている。窓からは側の道路を歩きかう車の様子がうかがえたり、遠くには太平山も臨むことができ、地域に暮らしている実感を持ちながら過ごすことができる。不快な刺激など無く、居心地の良い空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にソファーを置き自由に座ってもらったりしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物、TV、写真などを置き居心地良い空間作りをしている。	各居室にはベット・洗面台・看取りを行った家族からの寄付による筆筒が備え付けられている。持ち込みは自由であり一人で過ごせるいすが置かれたり、家族の写真やプレゼントなどが飾られ、一人ひとりの個別の居心地の良い空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が自立した生活を送れるよう見守り。安全管理をしている。		